

第 1 章

概 要

注) 単位未満は四捨五入しているため、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

本県における平成28年の出生、死亡、自然増減、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりで、平成27年と比べ、出生数、死亡数は増加し、その他は減少した。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	平成28年	平成27年	対前年比	平成28年	平成27年	対前年比	平成28年	平成27年
出生	8,626	8,621	5	6.7	6.6	0.1	1°01'06"	1°00'58"
死亡	17,309	17,148	161	13.4	13.1	0.3	30'27"	30'39"
乳児死亡	18	20	△2	2.1	2.3	△0.2	488°00'00"	438°00'00"
新生児死亡	8	13	△5	0.9	1.5	△0.6	1,098°00'00"	673°50'46"
自然増減	△8,683	△8,527	△156	△6.7	△6.5	△0.2	…	…
死産	183	216	△33	20.8	24.4	△3.6	48°00'00"	40°33'20"
自然死産	81	102	△21	9.2	11.5	△2.3	108°26'40"	85°52'56"
人工死産	102	114	△12	11.6	12.9	△1.3	86°07'04"	76°50'32"
周産期死亡	26	40	△14	3.0	4.6	△1.6	337°50'46"	219°00'00"
妊娠満22週以後の死産	20	30	△10	2.3	3.5	△1.2	439°12'00"	292°00'00"
早期新生児死亡	6	10	△4	0.7	1.2	△0.5	1,464°00'00"	876°00'00"
婚姻	5,135	5,432	△297	4.0	4.2	△0.2	1°42'38"	1°36'46"
離婚	2,164	2,267	△103	1.68	1.74	△0.06	4°03'33"	3°51'51"

区分	平成28年	平成27年
合計特殊出生率	1.48	1.43

（全国）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	平成28年	平成27年	対前年比	平成28年	平成27年	対前年比	平成28年	平成27年
出生	976,978	1,005,677	△28,699	7.8	8.0	△0.2	00'32"	00'31"
死亡	1,307,748	1,290,444	17,304	10.5	10.3	0.2	00'24"	00'24"
乳児死亡	1,928	1,916	12	2.0	1.9	0.1	4°33'22"	4°34'19"
新生児死亡	874	902	△28	0.9	0.9	0.0	10°03'01"	9°42'42"
自然増減	△330,770	△284,767	△46,003	△2.6	△2.3	△0.3	…	…
死産	20,934	22,617	△1,683	21.0	22.0	△1.0	25'11"	23'14"
自然死産	10,067	10,862	△795	10.1	10.6	△0.5	52'21"	48'23"
人工死産	10,867	11,755	△888	10.9	11.4	△0.5	48'30"	44'43"
周産期死亡	3,516	3,728	△212	3.6	3.7	△0.1	2°29'54"	2°20'59"
妊娠満22週以後の死産	2,840	3,063	△223	2.9	3.0	△0.1	3°05'35"	2°51'36"
早期新生児死亡	676	665	11	0.7	0.7	0.0	12°59'39"	13°10'23"
婚姻	620,531	635,156	△14,625	5.0	5.1	△0.1	00'51"	00'50"
離婚	216,798	226,215	△9,417	1.73	1.81	△0.08	02'26"	02'19"

区 分	平成28年	平成27年
合計特殊出生率	1.44	1.45

注:1) 青森県の基礎人口は平成28年が1,290,000人、平成27年が1,304,813人である。

注:2) 全国の基礎人口は平成28年が125,020,252人、平成27年が125,319,299人である

注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

1 出 生

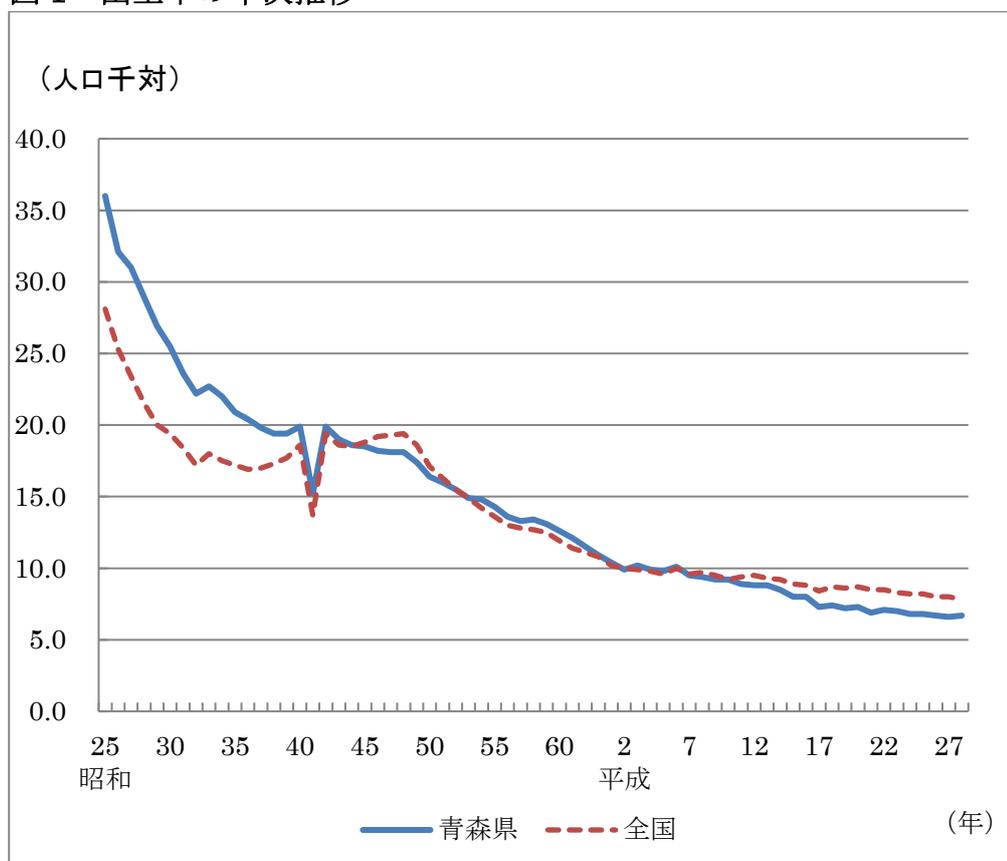
(1) 年 次 推 移

本県における出生率（人口千対）の推移をみると、昭和 25 年の 36.0 をピークにその後は下降傾向を示し、昭和 37 年には 19.8 を、平成 2 年には 10.0 を割った。平成 7 年以降は緩やかな減少が続いている。

平成 28 年の出生率は 6.7 で、前年の 6.6 を 0.1 ポイント上回り、全国値の 7.8 を 1.1 ポイント下回っている。（図 1）

また、合計特殊出生率は 1.48 で、前年の 1.43 を 0.05 ポイント上回っており、全国値の 1.44 を 0.04 ポイント上回っている。

図 1 出生率の年次推移



(2) 地 域 別 出 生

平成 28 年の市部の出生数は 6,971 人、郡部は 1,655 人であり、出生率（人口千対）は市部が 6.9 で郡部の 5.7 を 1.2 ポイント上回っている。

詳細は第 2 章第 6 表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

平成 28 年に出生した子（死産を除く）が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第 1 子が 44.9%、第 2 子が 36.1%、第 3 子以上が 19.0%となっており、第 1 子と第 2 子で全体の 81.0%を占めている。（第 2 章第 8 表参照）

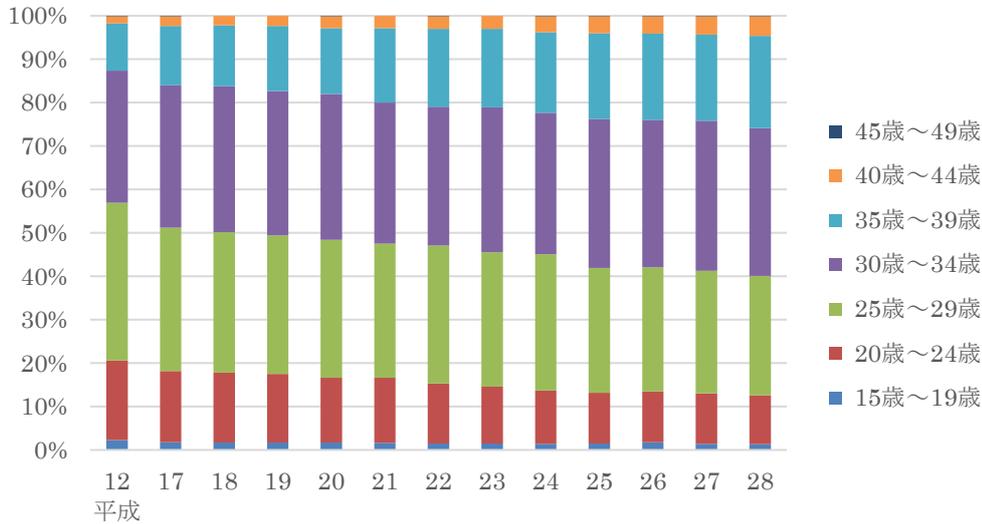
また、平成 28 年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30 歳から 34 歳が 34.1%で最も高く、次いで 25 歳から 29 歳が 27.5%となっている。（表 2）

表 2 母の年齢階級別出生の構成比

(単位: %)

母の年齢	平成12年	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
15歳～19歳	2.3	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.5	1.5	1.4	1.5	1.8	1.4	1.3
20歳～24歳	18.3	16.4	16.1	15.8	14.9	15.0	13.8	13.1	12.3	11.7	11.7	11.6	11.3
25歳～29歳	36.3	33.0	32.4	31.9	31.8	30.9	31.8	30.9	31.4	28.8	28.6	28.3	27.5
30歳～34歳	30.5	32.8	33.6	33.3	33.6	32.5	32.0	33.4	32.6	34.3	34.0	34.5	34.1
35歳～39歳	10.9	13.7	14.0	15.0	15.2	17.2	17.9	18.1	18.5	19.8	19.9	19.9	21.3
40歳～44歳	1.6	2.2	2.2	2.3	2.7	2.8	2.9	3.0	3.7	3.9	4.0	4.2	4.5
45歳～49歳	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

図 2 母の年齢階級別出生の構成比



2 死 亡

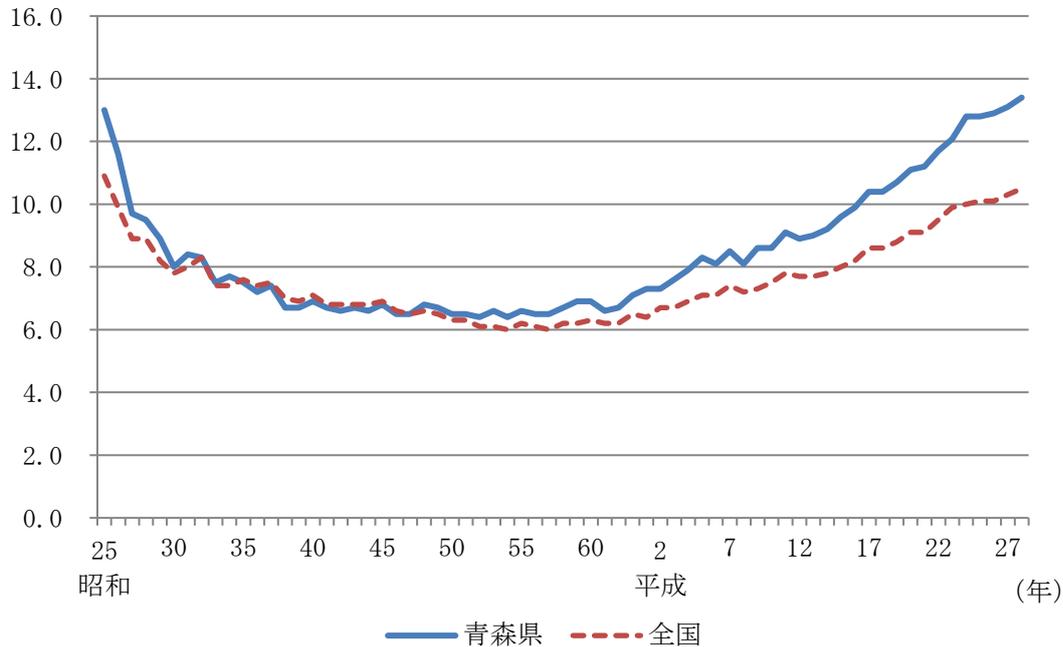
(1) 年 次 推 移

本県における死亡率（人口千対）の推移をみると、昭和 25 年以降著しく低下し、昭和 33 年には 8.0 を割るまでに改善された。しかし、平成 5 年には再び 8.0 を上回り、その後は人口の高齢化を反映して上昇傾向が続いている。

平成 28 年の死亡率は 13.4 で、前年の 13.1 を 0.3 ポイント上回り、全国値の 10.5 を 2.9 ポイント上回っている。（図 3）

図 3 死亡率の年次推移

（人口千対）



(2) 地 域 別 死 亡

平成 28 年の市部の死亡数は、12,652 人、郡部が 4,657 人で、死亡率（人口千対）は、市部が 12.6 で郡部の 16.0 を 3.4 ポイント下回っている。

詳細は第 2 章第 13 表に記載されているので参照されたい。

(3) 主要死因

本県における主要死因の推移を年次別にみると、昭和25年に高かった「結核」が激減し、変わって昭和27年に「脳血管疾患」が1位となった。その後、「悪性新生物」と「心疾患」が増加し、昭和57年には「悪性新生物」が「脳血管疾患」を上回って1位になり、さらに昭和61年には「心疾患」が「脳血管疾患」を上回り、2位になった。(図4)

平成28年における本県の10大死因をみると、1位が「悪性新生物(がん)」、2位が「心疾患」、3位が「肺炎」で、1位から3位までで全死亡者の約54.1%を占めている。(表3、図5)

なお、男女別にみた主要死因の順位は、男女共に1位悪性新生物、2位心疾患となっており、3位は男性が肺炎、女性が脳血管疾患となっている。(表3)

表3 死因順位別死亡者数、死亡率
(前年比較・全国比較)

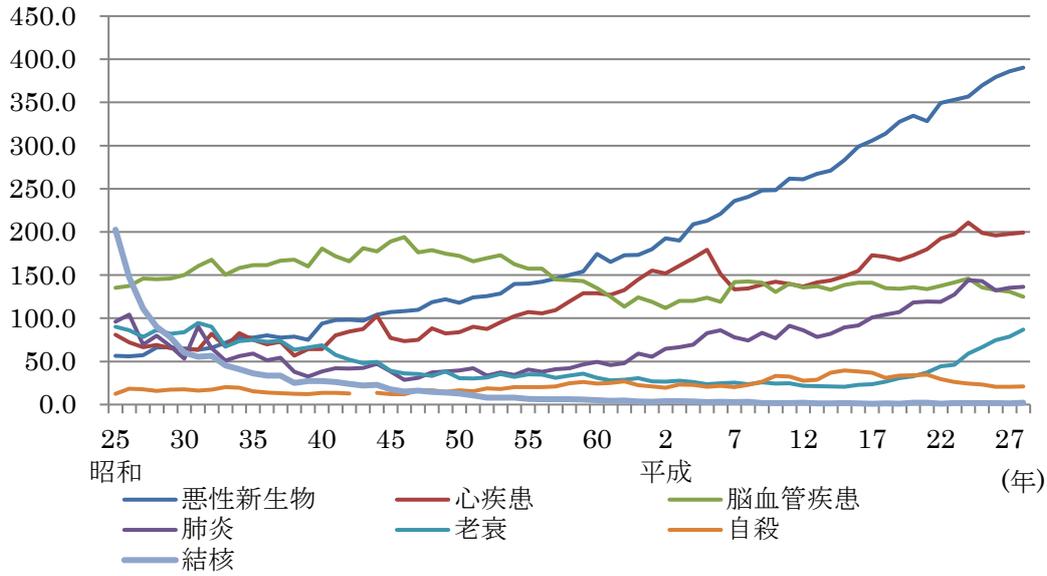
死 因	青森県						全国		
	平成28年			平成27年			平成28年		
	順位	死亡数	率	順位	死亡数	率	順位	死亡数	率
死亡総数		17,309	1,341.8		17,148	1,314.2		1,307,748	1,046.0
悪性新生物	1	5,034	390.2	1	5,035	385.9	1	372,986	298.3
心疾患	2	2,568	199.1	2	2,582	197.9	2	198,006	158.4
肺炎	3	1,759	136.4	3	1,766	135.3	3	119,300	95.4
脳血管疾患	4	1,610	124.8	4	1,706	130.7	4	109,320	87.4
老衰	5	1,122	87.0	5	1,027	78.7	5	92,806	74.2
不慮の事故	6	539	41.8	6	493	37.8	6	38,306	30.6
腎不全	7	416	32.2	7	375	28.7	7	24,612	19.7
自殺	8	271	21.0	8	267	20.5	8	21,017	16.8
大動脈瘤及び解離	9	258	20.0	10	222	17.0	9	18,145	14.5
糖尿病	10	220	17.1	9	239	18.3	12	13,480	10.8

(青森県男女比較)

死 因	平成28年					
	男性			女性		
	順位	死亡数	率	順位	死亡数	率
死亡総数		8,777	1,448.3		8,532	1,249.2
悪性新生物	1	2,938	484.8	1	2,096	306.9
心疾患	2	1,204	198.7	2	1,364	199.7
肺炎	3	983	162.2	5	776	113.6
脳血管疾患	4	728	120.1	3	882	129.1
老衰	6	250	41.3	4	872	127.7
不慮の事故	5	307	50.7	6	232	34.0
腎不全	7	207	34.2	7	209	30.6
自殺	8	195	32.2	11	76	11.1
大動脈瘤及び解離	11	135	22.3	9	123	18.0
糖尿病	12	121	20.0	10	99	14.5

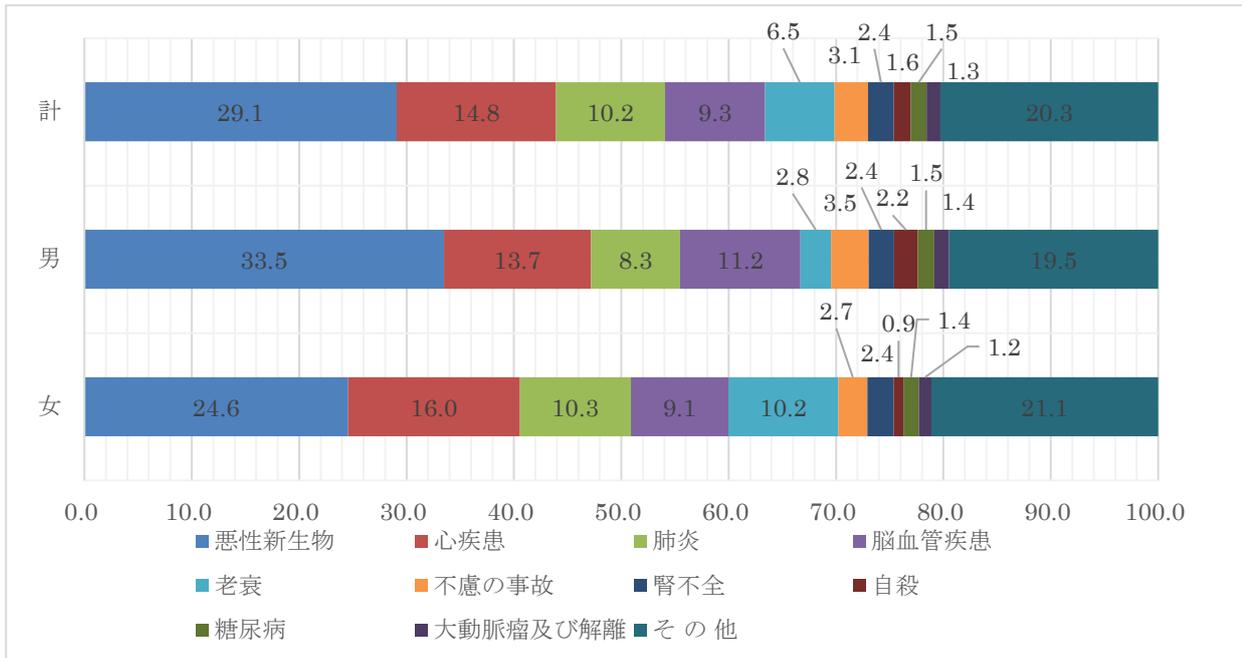
図4 主要死因別の死亡率の推移

(人口10万対)



注) 自殺について、昭和43年データなし

図5 10大死因の構成比 (%)



(4) 悪性新生物(がん)

本県における悪性新生物による死亡率(人口10万対)は年々増加傾向にあり、平成28年は390.2で、前年の385.9を4.3ポイント上回っており、全国値の298.3を91.9ポイント上回っている。

部位別では、「気管、気管支及び肺」、「胃」、「結腸」での死亡構成比が高く、これらで全体の41.3%を占めている。(表4)

表4 悪性新生物(がん) 主な部位別死亡率、構成比率(年次推移)

区分	平成2年	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	
死亡率	悪性新生物	192.4	236.0	261.0	305.9	349.3	353.2	356.7	369.7	379.5	385.9	390.2
	食道	7.0	7.2	10.2	10.4	10.7	9.8	11.4	11.0	10.4	10.6	11.2
	胃	41.3	44.2	47.3	46.6	51.5	51.8	49.0	51.3	49.8	52.4	47.8
	結腸	-	19.0	22.2	28.3	35.8	33.9	34.6	36.4	42.9	39.1	41.6
	直腸S状結腸移行部 ²⁾	7.8	11.2	12.6	13.8	14.8	17.7	16.0	16.3	17.3	18.7	20.2
	肝及び肝内胆管 ³⁾	17.2	22.2	21.3	26.4	26.6	26.8	26.4	29.5	27.2	27.4	28.1
	胆のう及びその他の胆道	-	15.3	14.5	19.0	20.7	21.3	23.5	21.5	23.5	22.8	23.8
	膵	15.3	17.0	20.6	23.2	29.8	27.7	29.8	31.2	32.9	33.5	35.2
	気管、気管支及び肺	32.4	40.9	47.7	55.8	69.0	67.0	64.8	70.1	71.7	73.6	71.6
	乳房	8.6	7.0	7.7	9.1	11.3	11.5	11.8	12.9	13.8	15.1	13.6
	子宮 ⁴⁾	8.4	6.6	7.3	8.2	9.0	10.8	11.5	13.2	10.2	13.3	11.4
	白血病	4.5	4.7	3.9	4.2	5.2	5.7	5.9	5.3	6.7	6.5	7.2
	(再掲)大腸 ⁵⁾	-	30.2	34.8	42.2	50.6	51.6	50.6	52.7	60.2	57.8	61.8
構成比	悪性新生物											
	食道	3.6	3.1	3.9	3.4	3.1	2.8	3.2	3.0	2.7	2.7	2.9
	胃	21.5	18.7	18.1	15.2	14.7	14.7	13.7	13.9	13.1	13.6	12.3
	結腸	-	8.1	8.5	9.3	10.2	9.6	9.7	9.8	11.3	10.1	10.7
	直腸S状結腸移行部及び直腸 ²⁾	4.1	4.7	4.8	4.5	4.2	5.0	4.5	4.4	4.6	4.8	5.2
	肝及び肝内胆管 ³⁾	8.9	9.4	8.2	8.6	7.6	7.6	7.4	8.0	7.2	7.1	7.2
	胆のう及びその他の胆道	-	6.5	5.6	6.2	5.9	6.0	6.6	5.8	6.2	5.9	6.1
	膵	8.0	7.2	7.9	7.6	8.5	7.8	8.4	8.4	8.7	8.7	9.0
	気管、気管支及び肺	16.8	17.3	18.3	18.2	19.8	19.0	18.2	19.0	18.9	19.1	18.3
	乳房	4.5	3.0	3.0	3.0	3.2	3.3	3.3	3.5	3.6	3.9	3.5
	子宮 ⁴⁾	4.4	2.8	2.8	2.7	2.6	3.1	3.2	3.6	2.7	3.4	2.9
	白血病	2.3	2.0	1.5	1.4	1.5	1.6	1.7	1.4	1.8	1.7	1.8
	(再掲)大腸 ⁵⁾	-	12.8	13.3	13.8	14.5	14.6	14.2	14.3	15.9	15.0	15.8

- ※1) 死亡率は人口10万対、構成比は%。
なお、死亡率のうち、「子宮」、「乳房」は女性人口10万対である。
- ※2) 平成6年までは「直腸、直腸S状結腸移行部及び肛門」。
- ※3) 平成6年までは「肝」。
- ※4) 平成6年までは「胎盤」を含む。
- ※5) 結腸と直腸S状結腸以降部を含む。

表5 悪性新生物（がん）部位別死亡数、死亡率、構成比率

(平成28年)

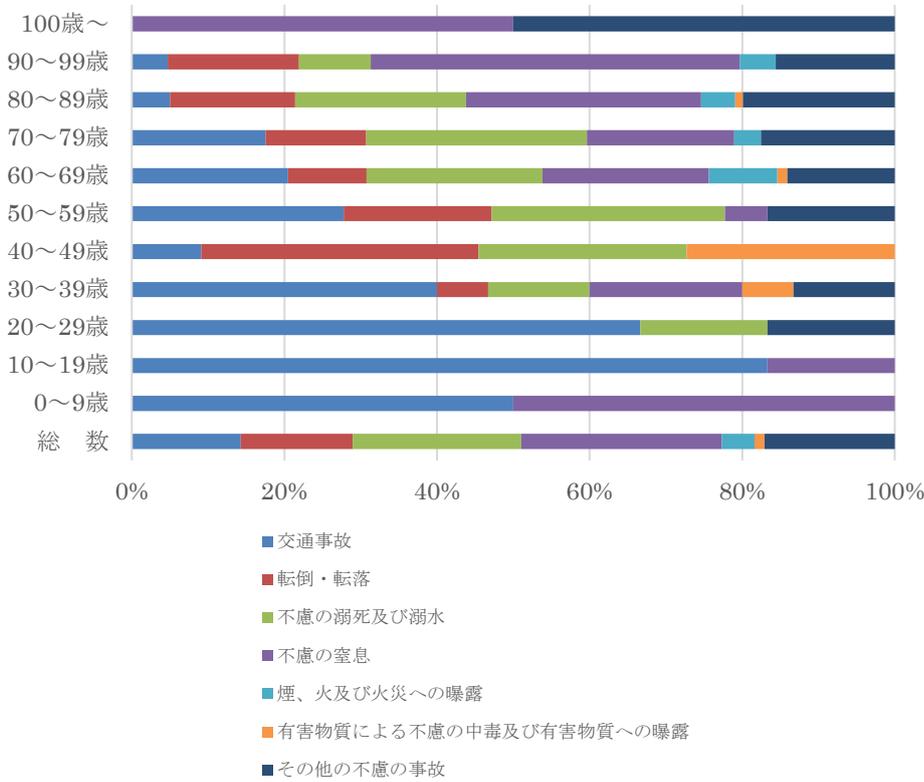
区分	死亡者数（人）			死亡率（人口10万対）			構成比（％）		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性
悪性新生物	5,034	2,938	2,096	390.2	48.9	306.9	100.0	100.0	100.0
口唇、口腔及び咽頭	114	83	31	8.8	1.4	4.5	2.3	2.8	1.5
食道	145	128	17	11.2	2.1	2.5	2.9	4.4	0.8
胃	617	406	211	47.8	6.8	30.9	12.3	13.8	10.1
結腸	537	276	261	41.6	4.6	38.2	10.7	9.4	12.5
直腸S状結腸移行部	260	176	84	20.2	2.9	12.3	5.2	6.0	4.0
肝及び肝内胆管	362	226	136	28.1	3.8	19.9	7.2	7.7	6.5
胆のう及び他の胆道	307	137	170	23.8	2.3	24.9	6.1	4.7	8.1
膵	454	217	237	35.2	3.6	34.7	9.0	7.4	11.3
喉頭	17	16	1	1.3	0.3	0.1	0.3	0.5	0.05
気管、気管支及び肺	923	648	275	71.6	10.8	40.3	18.3	22.1	13.1
皮膚	28	12	16	2.2	0.2	2.3	0.6	0.4	0.8
乳房	176	4	172	13.6	0.1	25.2	3.5	0.1	8.2
子宮	78	.	78	11.4	.	11.4	1.5	.	3.7
卵巣	70	.	70	10.2	.	10.2	1.4	.	3.3
前立腺	163	163	.	2.7	2.7	.	3.2	5.5	.
膀胱	123	82	41	9.5	1.4	6.0	2.4	2.8	2.0
中枢神経系	24	16	8	1.9	0.3	1.2	0.5	0.5	0.4
悪性リンパ腫	130	68	62	10.1	1.1	9.1	2.6	2.3	3.0
白血病	93	53	40	7.2	0.9	5.9	1.8	1.8	1.9
その他のリンパ組織	44	25	19	3.4	0.4	2.8	0.9	0.9	0.9
その他	369	202	167	28.6	3.4	24.5	7.3	6.9	8.0
(再掲) 大腸	797	452	345	61.8	7.5	50.5	15.8	15.4	16.5

(5) 不慮の事故

本県における平成28年の不慮の事故による死亡率(人口10万対)は41.8で、前年の37.8を4.0ポイント上回っており、全国値の30.6を11.2ポイント上回っている。

また、不慮の事故の原因別構成比で見ると、「不慮の窒息」が26.3%と最も多く、次いで「不慮の溺死及び溺水」、「転倒・転落」、「交通事故」の順となっている。(図6)

図6 不慮の事故による死亡数の年齢階級別構成比



区分	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳～
不慮の事故	539	4	6	6	15	11	36	78	114	201	64	4
交通事故	77	2	5	4	6	1	10	16	20	10	3	-
転倒・転落	79	-	-	-	1	4	7	8	15	33	11	-
不慮の溺死及び溺水	119	-	-	1	2	3	11	18	33	45	6	-
不慮の窒息	142	2	1	-	3	-	2	17	22	62	31	2
煙、火及び火災への曝露	23	-	-	-	-	-	-	7	4	9	3	-
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	7	-	-	-	1	3	-	1	-	2	-	-
その他の不慮の事故	92	-	-	1	2	-	6	11	20	40	10	2
構成比												
交通事故	14.3	50.0	83.3	66.7	40.0	9.1	27.8	20.5	17.5	5.0	4.7	-
転倒・転落	14.7	-	-	-	6.7	36.4	19.4	10.3	13.2	16.4	17.2	-
不慮の溺死及び溺水	22.1	-	-	16.7	13.3	27.3	30.6	23.1	28.9	22.4	9.4	-
不慮の窒息	26.3	50.0	16.7	-	20.0	-	5.6	21.8	19.3	30.8	48.4	50.0
煙、火及び火災への曝露	4.3	-	-	-	-	-	-	9.0	3.5	4.5	4.7	-
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	1.3	-	-	-	6.7	27.3	-	1.3	-	1.0	-	-
その他の不慮の事故	17.1	-	-	16.7	13.3	-	16.7	14.1	17.5	19.9	15.6	50.0

3 乳児死亡及び新生児死亡

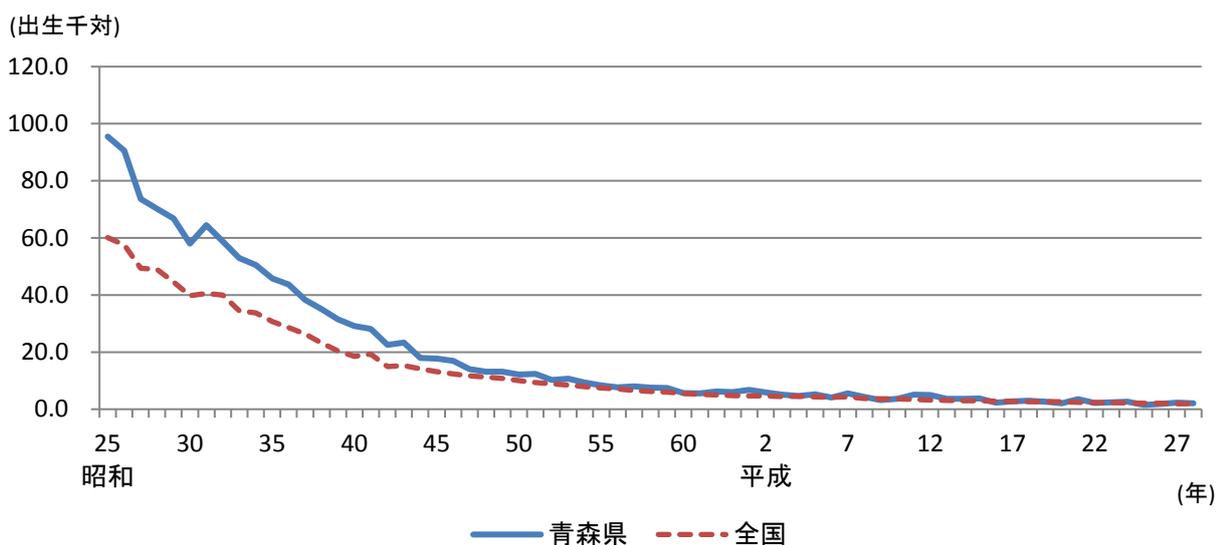
(1) 年次推移

① 乳児死亡

本県における乳児死亡率（出生千対）は、昭和25年は95.5であったが、その後大幅に改善され、昭和54年には10.0を割るまでになり、以降も低下を続けたが、平成4年以降は横ばいの状態が続いている。

平成28年の乳児死亡率は2.1で、前年の2.3を0.2ポイント下回り、全国値の2.0を0.1ポイント上回っている。（図7）

図7 乳児死亡率の年次推移

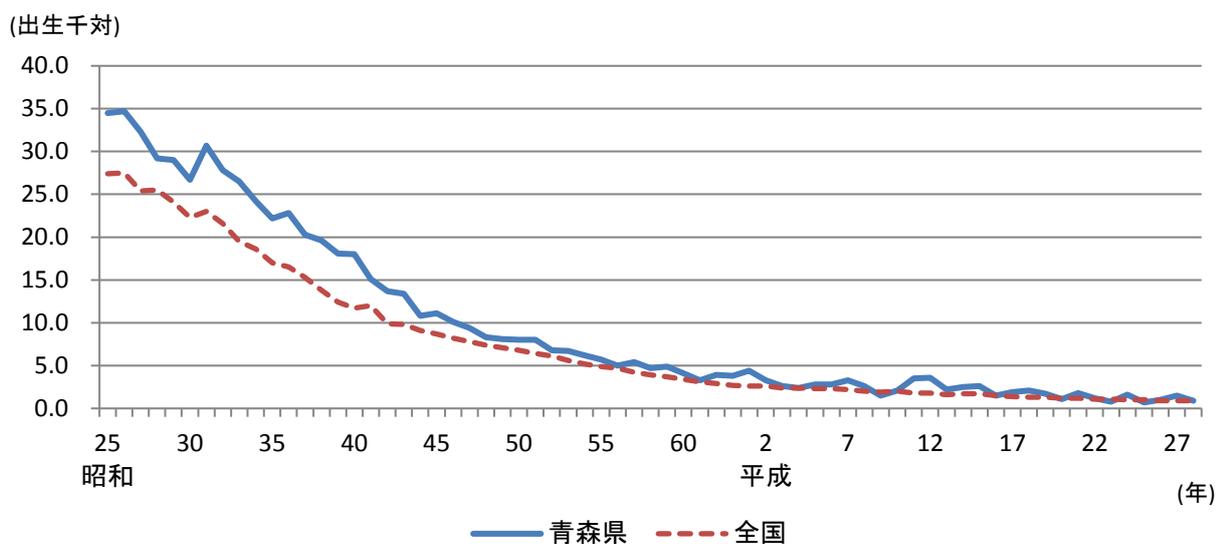


② 新生児死亡

新生児死亡率（出生千対）は、昭和26年以降、乳児死亡率と同様に、増加と減少を繰り返しながら緩やかに減少している。

平成28年の新生児死亡率は0.9で、前年の1.5を0.6ポイント下回っており、全国値の0.9と同値だった。（図8）

図8 新生児死亡率の年次推移



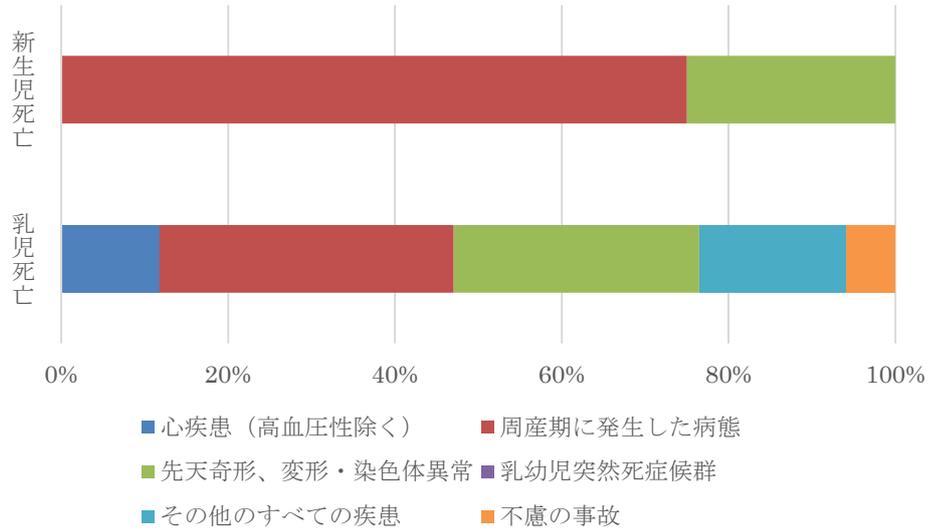
(2) 乳児死亡及び新生児死亡の主要原因

平成 28 年の乳児死亡を主要死因別構成比で見ると、「周産期に発生した病態」及び「先天奇形、変形及び染色体異常」が高くなっている。

また、新生児死亡を主要死因別構成比で見ると、同様に「周産期に発生した病態」及び「先天奇形、変形及び染色体異常」が高くなっている。(図 9)

詳細は、第 2 章第 2 2 表を参考されたい。

図 9 乳児及び新生児死亡率の主要死因構成比



5 死 産

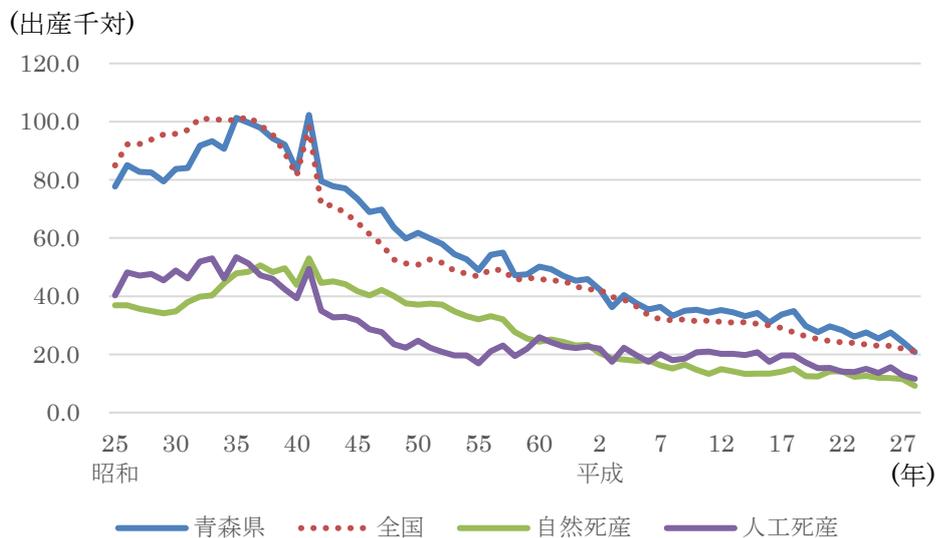
本県における死産率（出産千対：（出生＋死産）千対）は、昭和 25 年以降上昇傾向にあり、昭和 35 年をピークに下降したが、昭和 41 年（ひのえうま年）には急激に上昇した。

なお、死産率のうち、自然死産率は昭和 41 年をピークに緩やかな減少傾向を示している。一方、人工死産率は昭和 55 年に 20.0 を大きく下回ったものの、その後は再び 20.0 前後で推移し、横ばいの状況となっていたが、平成 19 年からは減少傾向が続いている。

平成 28 年の死産率は 20.8 で、前年の 24.4 を 3.6 ポイント下回っており、全国値の 21.0 を 0.2 ポイント下回っている。

また、自然死産率は 9.2 で、前年の 11.5 を 2.3 ポイント下回り、人工死産率は 11.6 で、前年の 12.9 を 1.3 ポイント下回っている。（図 10）

図 10 死産率の年次推移

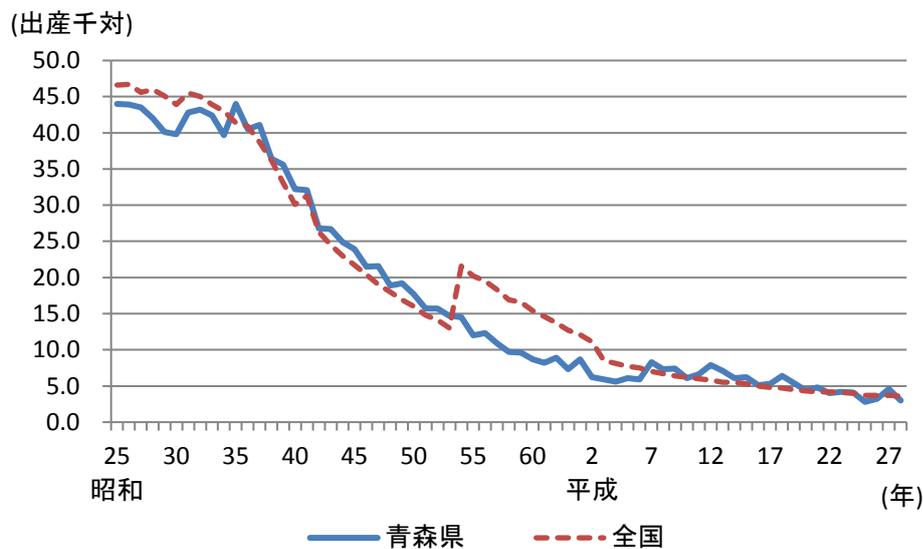


6 周産期死亡

本県における周産期死亡率（平成6年までは出生千対、平成7年からは出産千対（出生+満22週以後の死産）による）は、昭和37年まで40.0ポイント台で推移してきたが、昭和38年以降大幅に低下してきた。

平成28年の周産期死亡率は3.0で、前年の4.6を1.6ポイント下回っており、全国値の3.6を0.6ポイント下回っている。（図11）

図11 周産期死亡率の年次推移



※1) 周産期死亡率は、平成6年までは出生千対（出生+妊娠満28週以後の死産の千対）。平成7年以降は、出産千対（出生+妊娠満22週以後の死産の千対）。

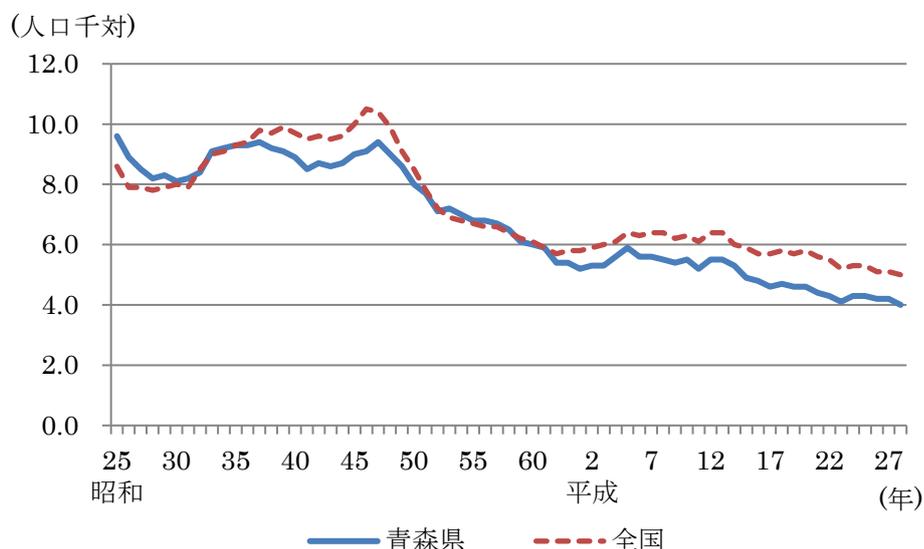
7 婚 姻

(1) 年 次 推 移

本県における婚姻率（人口千対）は、昭和 25 年以降 8.0～10.0 前後で推移していたが、昭和 47 年から下降傾向を示しており、昭和 61 年には 6.0 を割り込んだ。

平成 28 年の婚姻率は 4.0 で、前年の 4.2 を 0.2 ポイント下回っており、全国値の 5.0 を 1.0 ポイント下回っている。（図 12）

図 12 婚姻率の年次推移

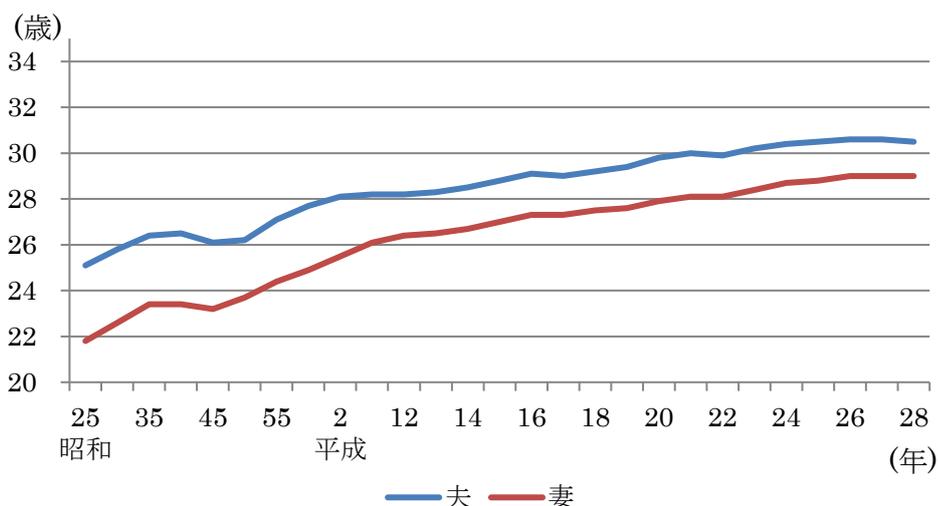


(2) 平均初婚年齢

本県における平均初婚年齢について、昭和 25 年以降の年次推移をみると、夫、妻ともに年齢が高くなっている。（図 13）

平成 28 年の平均初婚年齢（平成 28 年に結婚生活に入ったもので、結婚式を挙げた時、または同居を始めた時の年齢）は、夫が 30.5 歳、妻が 29.0 歳であり、全国値の夫 31.1 歳、妻 29.4 歳を、夫が 0.6 歳、妻が 0.4 歳下回っている。

図 13 平均初婚年齢の年次推移



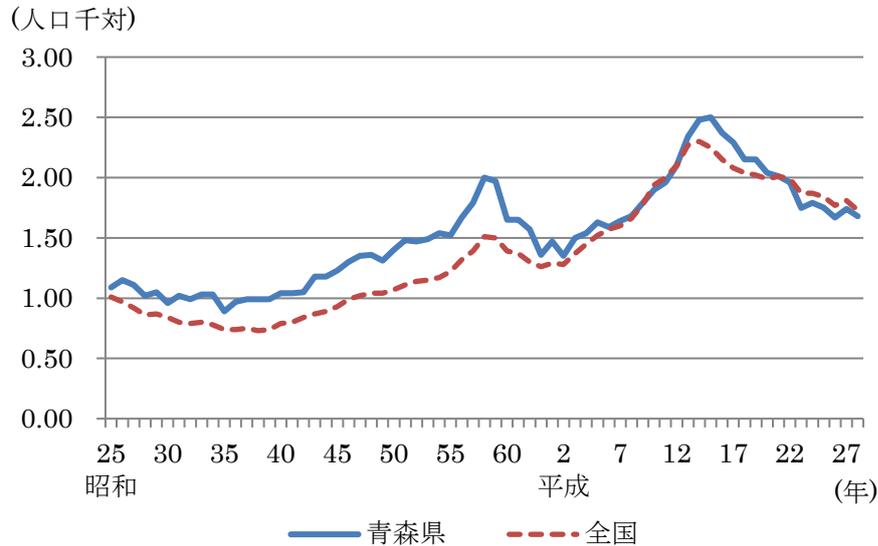
8 離 婚

(1) 年 次 推 移

本県における離婚率（人口千対）は、昭和 25 年以降横ばい状況が続いたが、昭和 40 年代から上昇し、昭和 58 年には 2.00 となった。それ以降は下降傾向を示していたが、平成 3 年から再び上昇したものの平成 16 年から減少傾向を示している。

平成 28 年の離婚率は 1.68 で、前年の 1.74 を 0.06 ポイント下回っており、全国値の 1.73 を 0.05 ポイント下回っている。（図 14）

図 14 離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

平成 28 年の離婚件数 2,164 件のうち、結婚 5 年未満で離婚した件数の構成比は 32.1%で最も多く、次いで 20 年以上の 21.3%、5～10 年の 19.1%の順となっている。（表 6）

表 6 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	平成7年	12年	17年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
0～5年	36.4	36.7	32.1	29.0	31.7	32.8	30.9	31.8	29.8	32.1
1年未満	7.1	6.5	5.3	4.9	5.4	6.1	5.6	6.5	5.1	5.8
1～2年	9.3	8.4	7.3	6.4	7.4	8.2	6.9	7.9	6.4	7.2
2～3年	8.2	7.7	7.5	6.8	7.3	6.6	6.6	6.7	6.8	7.7
3～4年	6.1	7.9	6.7	6.0	6.2	5.7	5.8	6.1	6.0	5.8
4～5年	5.8	6.2	5.3	5.0	5.4	6.2	6.0	4.6	5.6	5.6
5～10年	19.0	22.4	23.0	22.2	21.9	20.6	20.4	22.1	21.3	19.1
10～15年	13.2	11.0	13.9	13.7	14.7	14.6	14.6	12.3	14.3	13.5
15～20年	11.0	8.5	9.9	10.2	10.4	10.9	11.3	12.0	11.1	10.6
20年以上	18.9	18.1	19.2	20.1	17.9	18.0	20.0	19.0	20.2	21.3
不詳	1.5	3.4	2.0	4.7	3.4	3.0	2.7	3.0	3.2	3.4

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院数

平成28年10月1日現在の病院数は96施設で、前年の97施設から1施設減少した。人口10万対では7.4で、前年から変動なく、全国値の6.7を0.7ポイント上回った。

(2) 一般診療所数

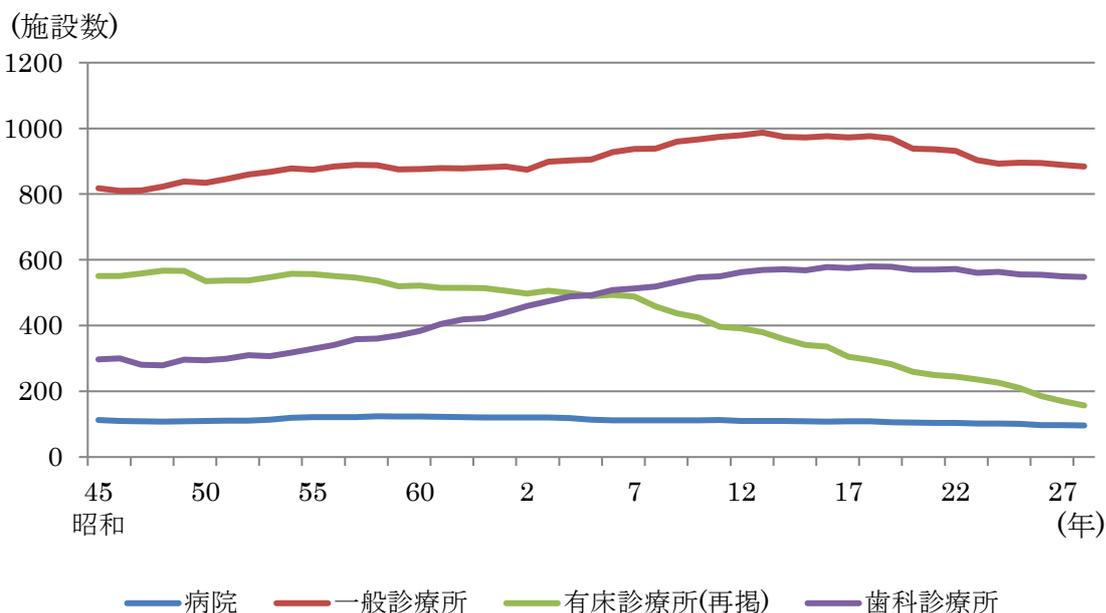
平成28年10月1日現在の一般診療所数は884施設で、前年の889施設から5施設減少した。人口10万対では68.4で、前年の68.0を0.4ポイント上回り、全国値である80.0を11.6ポイント下回った。

そのうち、有床診療所は157施設で、前年の170施設から13施設減少し、診療所全体の約17.8%（全国値約7.5%）となっている。

(3) 歯科診療所数

平成28年10月1日現在の歯科診療所数は548施設で、前年の550施設から2施設減少した。人口10万対では42.4で、前年の42.0を0.4ポイント上回り、全国値である54.3を11.9ポイント下回った。

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

平成28年12月31日現在の医師数は2,702人であり、前回調査の平成26年(2,681人)から、21人増加している。

また、人口10万対では209.0であり、前回(203.0)に比べ、6.0ポイント上回り、全国値である251.7を42.7ポイント下回った。

表1 医師数の年次推移

(単位：人)

区分		平成8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年
青森県	医師数	2,432	2,487	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636	2,639	2,681	2,702
	人口10万対	164.0	168.3	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	191.9	195.5	203.0	209.0
全国	医師数	240,908	248,611	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049	303,268	311,205	319,480
	人口10万対	191.4	196.6	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4	237.8	244.9	251.7

(2) 歯科医師

平成28年12月31日現在の歯科医師数は762人であり、前回調査の平成26年(780人)から、18人減少している。

また、人口10万対では58.9であり、前回(59.0)に比べ、0.1ポイント下回り、全国値である82.4を23.5ポイント下回った。

表2 歯科医師数の年次推移

(単位：人)

区分		平成8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年
青森県	歯科医師数	708	730	717	758	757	777	789	781	787	780	762
	人口10万対	47.7	49.4	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9	58.3	59.0	58.9
全国	歯科医師数	85,518	88,061	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	101,576	102,551	103,972	104,533
	人口10万対	67.9	69.6	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3	80.4	81.8	82.4

(3) 薬剤師

平成28年12月31日現在の薬剤師数は2,210人であり、前回調査の平成26年(2,111人)から、99人増加している。

また、人口10万対では170.9であり、前回(159.8)に比べ、11.1ポイント上回り、全国値である237.4を66.5ポイント下回った。

表3 薬剤師数の年次推移

(単位：人)

区分		平成8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年
青森県	薬剤師数	1,422	1,519	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012	2,052	2,111	2,210
	人口10万対	95.9	102.8	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5	152.0	159.8	170.9
全国	薬剤師数	194,300	205,953	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751	276,517	280,052	288,151	301,323
	人口10万対	154.4	162.8	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9	219.6	226.7	237.4